The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	統計処理実習 : アンケート調査の手順と方法
Author(s)	林, 晃子
Citation	大阪外国語大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2006, 4, p. 47-58
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/12719
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

統計処理実習
—アンケート調査の手順と方法—

林　晃子

【要旨】

本稿は、「統計処理実習—アンケート調査の手順と方法—」の授業報告である。留学生は、この授業で社会調査の基礎的な方法論を学び、社会調査のひとつであるアンケート調査を実際に行い、最後はレポートにまとめる。この授業報告では授業の流れを示し、アンケート調査の実践を通して日本文化を学ぶ過程と留学生たちが書いたレポートを報告する。

この授業報告は、2005年9月17日に行われた第１回日本語日本文化教育センター教育研修会における発表の際に使用したパワーポイントのレジュメをもとに、発表の際に口頭で説明したことを中心として説明を加えている。授業報告発表要旨もあわせて参照されたい。

１、はじめに

「統計処理実習」の授業は、総合科目の情報処理実習の枠にある。本センターでは主流の科目ではなく、むしろ傍流の授業である。一般には、統計手法を用いデータ分析を使った実証研究は現代において流行りの研究手法でもあり、時代にあった研究である。複雑な現代社会の実態を描き出すために、現実世界を数値化し単純化していく社会調査は有力な武器となる。日常生活の中でも、ニュースや新聞記事など社会調査の結果に接することは多い。しかし、調査方法が全くでたらめであったり、調査方法が妥当であっても公開した情報に操作が加えられていたり、ということも多い。そうだからこそ、世論操作につながる社会調査にだまされないように正しい社会調査の理論や基礎知識を習得し、かつ社会について考えることができるような社会調査を自ら実践できる能力を身につけていくことが重要である。そういった意味においても、社会調査は学ぶ意義があり、また社会調査の実践を通して日本文化の一端を学ぶことができるという点でもこの授業が有益であると信じている。ただ、調査の実施に重点を置いているので、時間的制約から社会調査の理論の詳細までを授業でとりあげることができない。従って、留学生のレポートは、サンプリングの理論をきちんと把握した上で書き上げたものではないが、あくまでも授業の最大の目的は社会調査の実践と日本文化に触れることであり、本格的な調査研究ではないため、授業レベルで求められる内容としては十分であると思われる。

２、授業の目的と流れ

「統計処理実習」の授業の目的は、社会調査の基礎的な方法論について日本語で学ぶことと、アンケート調査を通して日本文化を学ぶことである。いわゆる「語学」の授業ではない、調査研究と統計処理という社会科学の専門分野の授業を通して日本語と日本文化を学ぶという点に、この授業の大きな意義があると考えられる。実際の授業の流れを４段階にわけて説明する。

第１段階として、学生に社会調査のサマリーを説明する。社会調査とは、社会のさまざまな抽象的な事柄をデータとしてとらえ、社会との関連性を求めて社会について考えるために調査

することをいう。つまり、社会的な問題意識に基づいてデータを収集し、収集したデータを使って社会について考え、その結果を公表する一連の過程である。社会調査にはさまざまなものがあり、その1つがアンケート調査であり、この授業でとりあげているデータ収集法である。次に、調査で集めた量的データを分析するための手がかりとなる基礎統計量について説明する。基礎統計量として、平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、変動係数についてとりあげる。その次に、アンケート調査用紙とデータのサンプルを渡し、実際にエクセルに入力してもらい、コンピューターを使った入力方法の練習を行う。グラフはデータの解釈・分析の手がかりとなるので、棒グラフ・帯グラフ・円グラフ・クロス表・折れ線グラフ・ステレオグラムの作成方法を実習し、相関係数の求め方・クロス表の読み方と解釈の仕方などを説明する。

授業の第2段階として、留学生にとって最も困難な作業となるアンケート調査用紙の作成を行う。実際に作成してもらうにあたって、調査用紙の作成方法や注意事項について説明する。例えば、質問文をつくる際の注意事項であるが、4つめの図を見ていただきたい。2つの質問文は、日本語として間違っていないが、アンケート調査における質問文としては適切でない。1つめは「熱心で優秀だ」という箇所が不適切である。というのは、この質問文に「はい」という回答があっても、熱心であることに「はい」と答えているのか、優秀であることに「はい」と答えているのか、あるいは両方に対して「はい」と答えているのか分からない。調査ではひとつの質問文に問いかけはひとつ、ということが原則であり、質問文はできるだけわかりやすくシンプルにすることが重要である。2つめの質問文もやはり日本語としては間違っていないが、質問文としては適切でない。下線部の箇所が不適切である。このような聞き方をすると、最初に相手に先入観と偏見を与えてしまい、評価についての回答を誘導してしまう可能性がある。評価に対する純粋な感想を聞きだすことができない。従って、このような前置きは不要である。他にもさまざまな注意事項はあるが、ここでとりあげるものはこの2例にとどめる。調査用紙での質問文の作成は難しく、日本人が作成しても何度も書き直す作業になるが、留学生にとってはなおさら困難な作業となる。留学生にとっては二重の難しさが存在する。つまり、言いたいことを日本語にする難しさと質問文として適切なものにする難しさである。授業報告発表要旨でも触れたが、テーマを選び問題設定をして質問用紙を完成させる、この第2段階が教師にとっては一番大変であり学生にとっても重要である。テーマ選びでは、どうしてもこれを調べたいというものを考えさせる。そして、どのようなことを調べたいのか、どのような結果がでると思うか、といった問いかけをこちらが投げかける。そうすると、学生にとっても漠然としていたものが、何を調査したいかがはっきりしてくるようになる。そこまで到達して初めてアンケート調査用紙の作成にとりかかる。アンケート調査用紙のサンプルを何種類かコピーして配布し、調査用紙の形式の参考にできるような見本品を与える。そして、学生に調査用紙の原案を書かせる。最初に持ってくる原案は、正直、間違いだらけである。①日本語としての間違い、②質問内容の不明瞭さ、③質問文としての不適切さ、④質問文の組み立てや順序・構成のあいまいさ、など多岐にわたる訂正箇所が存在する。どれから手をつけていいのか迷うくらいであるが、まずは②の質問内容の不明瞭さの解消からとりかかる。学生と何度もコミュニケーションをとり、この質問文は何を聞きたいのかということを話し合い、日本語を訂正していく。その際、①の単純な日本語の間違いもあわせて直す。赤ペンで訂正していくが、真っ赤になる。そして、①と②の段階の日本語の訂正が終わると、次に④の質問文の組み立てや順

授業報告「統計処理実習 ～アンケート調査の手順と方法～」

日本語日本文化教育センター教育研修会（第1回）
2005年9月17日（土）

林　晃子

授業の目的

（1）社会調査の基礎的な方法論について日本語で学ぶ

（2）アンケート調査を通して日本文化を学ぶ

授業の流れ（第1段階）

社会調査の概要を説明

➡ 基礎統計量について
①平均値　②中央値　③最頻値
④分散　⑤標準偏差　⑥変動係数

➡ データ入力方法の説明

➡ エクセルを用いたグラフ作成の実習
棒グラフ・帯グラフ・円グラフ・クロス表・折れ線グラフ・ステレオグラムの作り方、相関係数の求め方など

序・構成を整える。最後に、③の質問文としての不適切さを指摘する。これら一連の作業が最も困難であるが、学生がたとえつまずいたとしても、問題設定をはっきりさせているので、それを再三確認させることで学生は諦めずに頑張るのである。また、何度も書き直していく過程で、自分の興味あるテーマに対するこだわりが強くなっており、納得するまで書き直す。真っ赤だった原案を学生が何度も書き直していくうちに、こちらが赤ペンを入れる箇所が減っていく。本センターの日本語の授業では①の日本語の訂正に時間をさいて、どの点がどのように間違っているのかを丁寧に説明するであろうが、この授業では、授業の性格上、①に重点を置いている時間的余裕がなく、②と③と④の訂正に時間をかける。そのため、この授業は、ある程度の日本語能力を備えている学生でなければ受講することができない。

アンケート調査用紙の作成（第2段階）

質問文の作り方（注意事項）

【例】

（1）大阪外国語大学の留学生は熱心で優秀だと思いますか

（2）大阪外国語大学の教育システムは注目を浴びており、高い評価を受けていると言われていますが、この評価についてどのように思いますか

調査の実施（第3段階）

調査用紙の完成

➡ アンケート調査用紙のプレテスト

➡ アンケート調査の実施

調査のデータ分析（第4段階）

調査用紙の回収

➡ 調査によって集めたデータを分析
【グラフを作成しデータの解釈を行う】

➡ レポートにまとめる

調査用紙完成後は、第3段階として、アンケート調査用紙のプレテストを行う。プレテストとは、自分が作成した調査用紙に対して自分が実際に回答して、質問文に問題がないか、訂正した方がよい点はないか、をチェックすることである。やっとの思いで調査用紙を完成させると、学生たちは達成感を覚え俄然やる気を出す。アンケート調査用紙を完成させるまでは、こちらからの積極的な後押しと励ましが必要であるが、その後はレポートを書き上げるまで学生たちは主体的に一気に作業を進める。教師の立場からすると、限られた時間の中で、最初のテーマ選びや問題設定・調査用紙作成の段階に時間をかけることは、予定通りに授業が進むのか不安で焦ってしまう。しかし、結局はそれが一番の近道ではないかと思っている。

アンケート調査を配布・回収した後は、調査によって集めたデータを分析する第4段階に入る。アンケート調査は大阪外国語大学の学生を対象におこなっている。第1段階で身につけたテクニックを使ってデータ分析を行い、レポートにまとめる。学生は自分で実際にデータ分析をするこの段階で、第1段階で説明した統計学的知識を身をもって理解することとなる。

留学生の調査

【例】

①日本人が温泉に入る習慣について

②日本の亭主関白について

③日本人のマザー・コンプレックスについて

④日本の年中行事と祭りについて

⑤日本人の敬語に対する意識・考え方について

3、留学生の調査例

それでは、実際に学生たちが行った調査の一部を紹介する。調査の例としては、図にもあるように、日本人が温泉に入る習慣について、日本の亭主関白について、日本人のマザコンについて、日本の年中行事と祭りについて、日本人の敬語観について、などさまざまなものがある。

調査用紙のフェイスシート

調査のお願い

私は、大阪外国語大学日本語日本文化教育センターの留学生です。最近、マザコンがよく話題になっています。自分のお母さんを大事にするのは大切ですが、お母さんを信頼しすぎる男性はマザコンと言われています。この調査はマザコンに関する研究のために行います。この調査は無記名であり統計的に処理しますので、回答して頂いた内容は研究以外使われることは絶対にありません。

記入についてのお願い：他の方と相談せず、必ず自分一人で考えてお答えください。

ご協力よろしくお願いします。

大阪外国語大学
＊＊名前＊＊

1．あなたはどこの国の方かお答えください。
　1．日本人　　2．留学生
2．あなたの年齢を答えてください。
　＿＿＿歳

では、具体的に学生たちが書き上げた調査用紙やレポートの中身の紹介に入る。これはマザコンについて調査した学生の調査用紙であるが、最初のお願い文とフェイスシートである。フェイスシートとは、回答者の性別・年齢など調査対象者の属性についてたずねるものである。

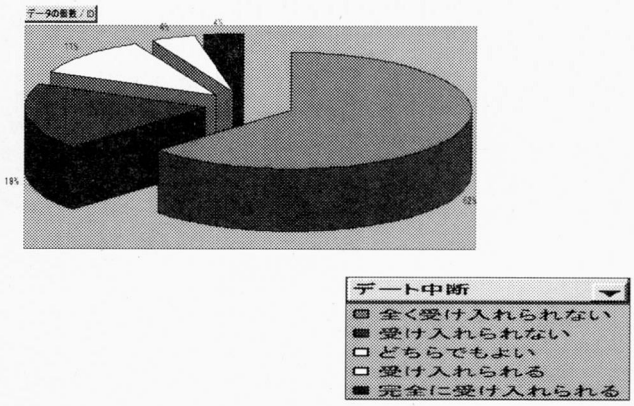
5段階評定法

次の状況はどのくらい受け入れることができますか。
1は全く受け入られない、5は完全に受け入られるとして○をつけてください。

1．デートしているとき、緊急の用事でもないのにお母さんからの電話があるとすぐデートを中断して、お母さんの所へ行く。	1	2	3	4	5
2．デート中、何回もお母さんに電話して報告する。	1	2	3	4	5
3．デート中、お母さんからの電話が何回も来る。	1	2	3	4	5
4．デート中お母さんが急に来て、デート後半はお母さんも一緒に3人で過ごす。	1	2	3	4	5
5．新婚旅行に、お母さんか両親も一緒に行く。	1	2	3	4	5

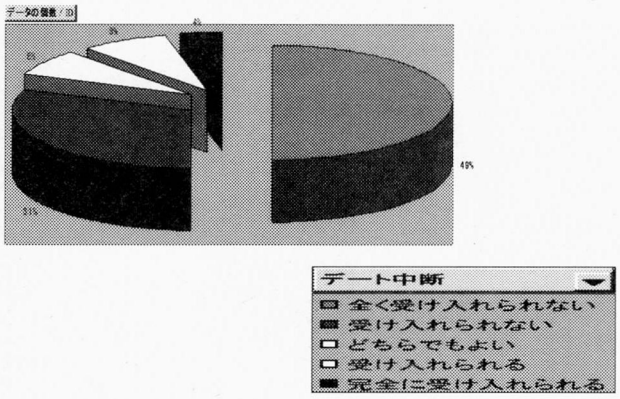
これは、質問文のひとつである。このように程度などを段階的に聞く方法を評定法といい、この質問文は5段階にわけて聞いているので、5段階評定法という。

設問1の結果（男性）



これはさきほどの設問の１番上の問に対する男性の回答を単純集計したものである。「デートしているとき、緊急の用事でもないのにお母さんからの電話があるとすぐデートを中断させてお母さんのところへ行く」という問に対しての結果である。順に、「全く受け入れられない」が62％、「受け入れられない」が19％、「どちらでもよい」が11％、「受け入れられる」が４％、「完全に受け入れられる」が４％、という結果になっている。

設問1の結果（女性）



同じく女性の回答を単純集計したものである。順に、49%、31%、８％，８％，４％、という結果になっている。

設問1の結果（クロス表）

「デート中断を受け入れられるかどうか」と「性別」の
2項目をクロスさせた表

	受け入れられない	どちらでもよい	受け入れられる	合計
男性	22	3	2	27
女性	21	2	3	26
合計	43	5	5	53

これは、上の２つの結果をクロス表にまとめたものである。受け入れられない・どちらでもよい・受け入れられる、の３段階にわけ、男女別でクロスさせている。欲を言えば、このクロス表からこの２項目間に統計学的に関連があるかどうかまでみてほしかったが、時間的な制約とエクセルソフトの限界もあり、単純集計にとどまっている。

自由記述より～好きな理由～

- 春
  - 青葉がきれい
  - 花が多く咲いてきれい
  - 暖かい、新しい気持になる
  - 過ごしやすい気候
  - 素敵な気持になる
  - 桜がきれいに咲いてお花見ができる。過ごしやすい気候
  - 新しいことがはじまるカンジがする。春のにおいが好き
  - 気温がちょうどよい
  - 活動的になれる
- 夏
  - 運動の季節。太陽がギラギラだとテンションが上がる
  - 海とアイスが好き

次に、日本の年中行事と祭りについて調査した学生のレポートの中の一部を紹介する。好きな季節を答えてもらう設問の後に、選んだ季節が好きな理由を自由記述で聞いている。春が好きと答えた人が春を選んだ理由、夏が好きと答えた人が夏を選んだ理由についての回答をまとめたものである。

秋と冬が好きな理由

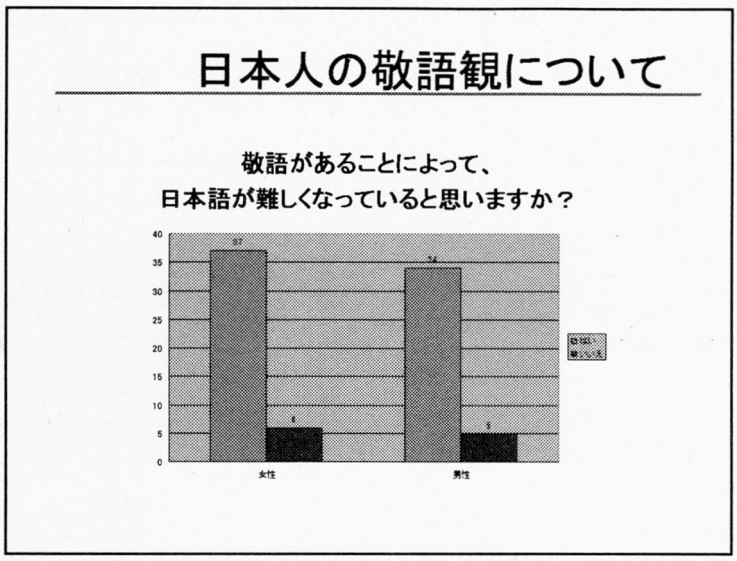
- 秋
  - 食べ物が美味しく食欲ワク
  - 涼しい
  - 寒くもなく、暑くもない
  - 景色がきれい
  - 紅葉！！お出かけのシーズン
- 冬
  - 冬は寒いけど、暖かいものを飲んだり、暖かい部屋で過ごしたり、暖かいイメージがあり、また、静かで落ちついた雰囲気がある
  - 静かな感じがする
  - 冬の寒さで、気持が引き締まる
  - 自分の誕生日の季節
  - 誕生日があるし、なしや柿がおいしい

これは、秋と冬が好きだと答えた人にその理由をたずねて得られた回答である。

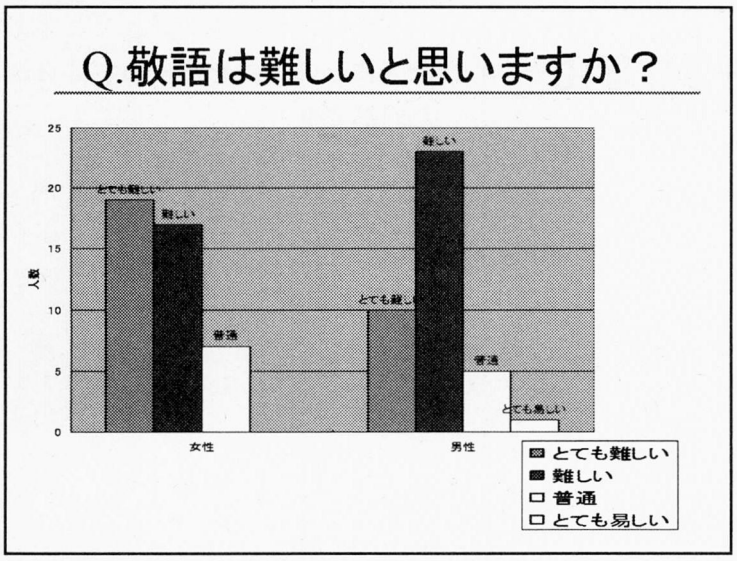
自由記述より～季節の風情～

- 新緑、桜、花火、浴衣、海、網戸越しの風のにおい、紅葉、だんじり、雪ししおどし
- 秋の夜、虫がいっぱい鳴いているのを聞いた時
- 秋に紅葉した山を見たとき
- 帰り道を一人で歩いていて葉っぱが散ってきた時
- 旬の果物の移り変わり
- 風鈴の音を聞いた時
- 服装が変わるとき（夏は薄着、冬は重ね着）
- 秋の紅葉と古い建物がマッチしているのを見たとき
- 通り道にある紅葉が赤く染まっていたとき
- せみが鳴いたとき
- 鶯の声を聞いた時
- お祭とか行事のとき感じる
- 桜並木道を歩いているとき
- 寺院を訪れたとき
- 山の色が変わるとき
- 風のにおいをかいだとき
- 夏祭りの盆踊りを見たとき、桜のにおいがしたとき
- さんまを食べるとき
- 女の子の浴衣を見たとき

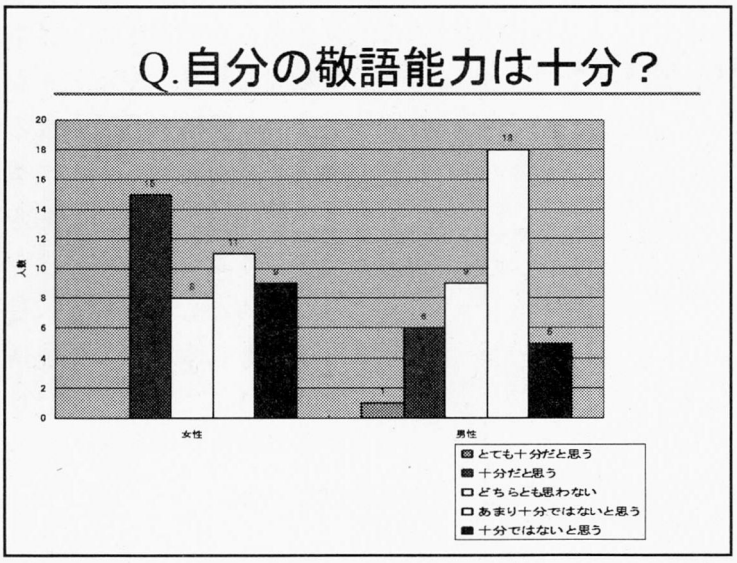
この調査を行った学生は、日本は趣のある国で、日本ではどんな季節にも特別な風情が感じられると思っており、実際に日本人に季節の風情はどのようなものであるか、とたずねてみた。この図はその結果をまとめたものである。日本人学生自身も日本の季節の風情と趣を感じていることを知り、ロマンチックな回答に調査した学生も感動していた。



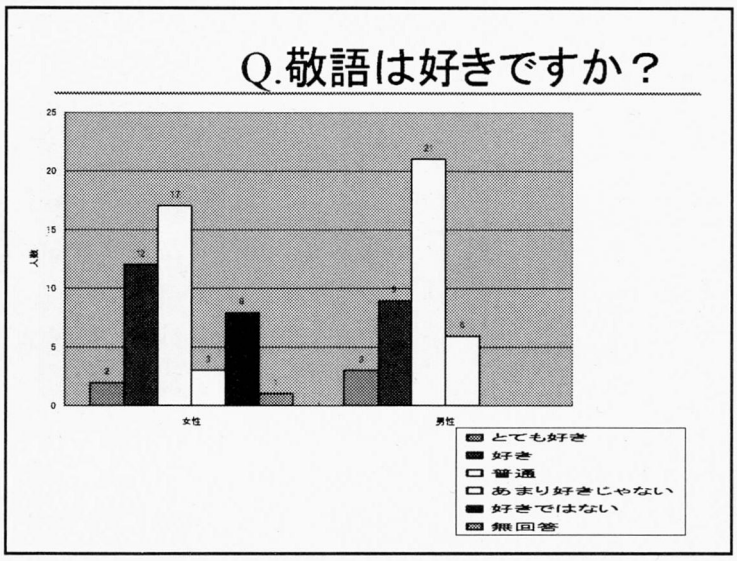
最後に、日本人の敬語についての意識・考え方について調査した学生のレポートからの抜粋である。ひとつめのグラフは敬語があることによって、日本語が難しくなっていると思うか、という問に対しての結果である。女性では、「はい」と答えた人が37人、「いいえ」と答えた人が６人、男性では「はい」が34人、「いいえ」が５人である。

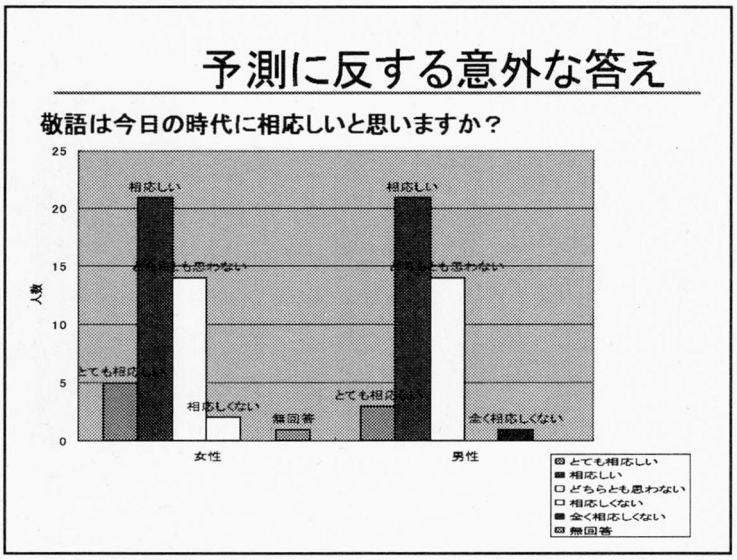


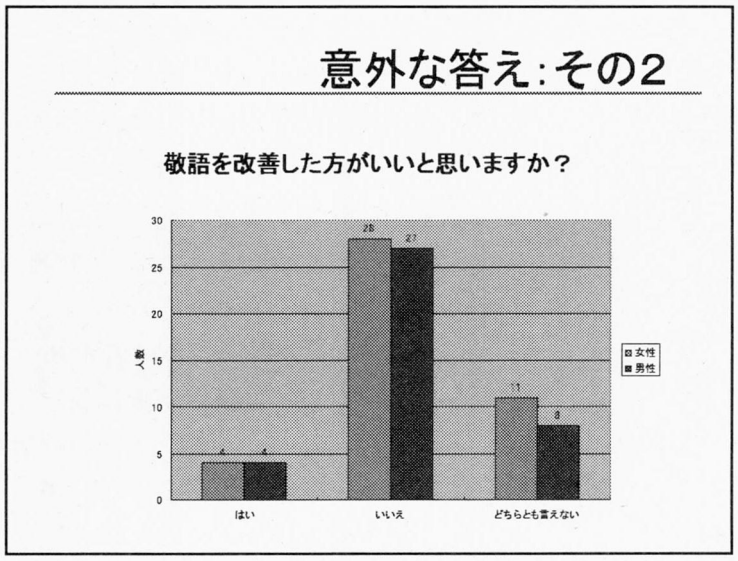
次に、敬語は難しいと思うか、という問に対して、女性では難しいと答えた人がほとんどで、男性でも同じような結果が得られている。



自分の敬語能力は十分か、という問に対しては、女性では、「とても十分だと思う」と答えた人は０人、「十分だと思う」と答えた人は15人、「どちらとも思わない」と答えた人は８人、「あまり十分ではないと思う」と答えた人は11人、「十分ではないと思う」と答えた人は９人となっており、男性では順に、１人、６人、９人、１８人、５人で、全体的にみると、「とても十分だと思う」と自信をもっている人は少ないようである。







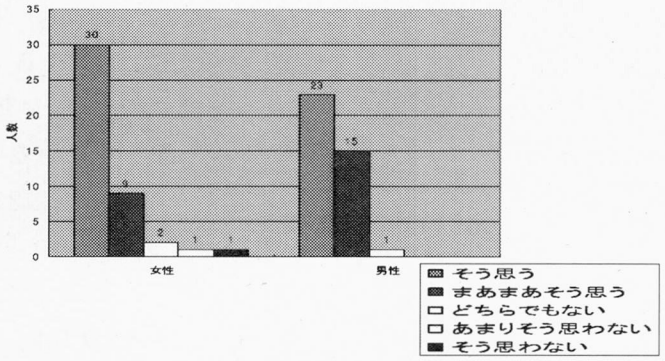
さらに、敬語が好きか、という問に対しては、女性では、「とても好き」と答えた人が2人、「好き」と答えた人が12人、「普通」と答えた人が17人、「あまり好きではない」と答えた人が3人、「好きではない」と答えた人が8人、無回答が1人となっている。男性では、順に、3人、9人、21人、6人、0人、0人となっている。以上、4つのグラフを見たが、ここまでは、この調査を行った学生の予測どおりの結果であった。こうした結果から留学生が次に予測したのは、敬語は日本人にとってもやはり難しく、あまり好きではないので、時代遅れの敬語は廃止すべきと思っているであろう、というものであった。

ところが、留学生が予測した結果とは裏腹に、日本人の若者（大阪外国語大学の学生であるが）たちには、敬語は今日の時代にふさわしい、日本文化として必要である、と考えている人が多かったのである。女性も男性も「相応しい」と答えた人が一番多かったことがグラフからわかる。

敬語を改善したほうがよいか、という問に対しても、「はい」と答えた人は男性も女性も4人、「いいえ」と答えた人は女性が28人、男性が27人であった。

意外な答え：その3

もし敬語が廃止されると、
日本の文化にとってマイナスになると思いますか？



今後の課題

（1）統計学的なことよりも実際の調査に重点
➡ どこにどれほどウエイトを置くべきか？

（2）データの扱いにおいて単純集計がメイン
➡ 2つの質問項目間の関連性
①クロス集計によるカイ2乗検定
②相関係数

授業報告「統計処理実習 ～アンケート調査の手順と方法～」

この報告に関するご意見・ご感想・アドバイス等は
akiko@fa3.so-net.ne.jp
までお願い致します！！

最後に、もし敬語が廃止されると、日本の文化にとってマイナスになると思うか、という質問に対して「そう思う」と答えた人は女性で30人、男性で23人、「まあまあそう思う」と答えた人は女性で9人、男性で15人にものぼり、「そう思う」と「まあまあそう思う」と答えた人をあわせると、77人になり、これは全体の94％にあたる。以上より、日本の若者も敬語は難しいと思いつつも大切な日本の文化だと考えていることがわかったのである。

4、おわりに

本稿の最後に、2つの課題について述べて終わりたい。レポートからもわかるように、留学生はこの授業で統計学やアンケート調査の方法を学ぶ以上に、調査によって日本文化を身をもって体験している。自分で苦労して調査するので、その感動もひとしおであるようだ。授業では、統計学的なことよりも実際の調査に重点をおいているが、どこにどれほどウエイトを置くべきか、という点で常に試行錯誤の状態である。統計学的なことは授業の第1段階でとりあげるが、サンプリング理論などにはあまり詳しく触れない。むしろ、調査に重点を置くことにより、日本文化についての理解を深めることができ、また学生が主体的に作業することができる。また、社会調査（アンケート調査）は、何度かの失敗を繰り返すことで上達していく。経験が必要である。しか

し、ほとんどの留学生にとって初めての経験であるから、失敗はつきものである。それを覚悟の上で授業を進めていかなければならないし、学生が調査に失敗した場合にどうするかということも考えておかなければならない。さらに、調査を行うには学生も教師も時間と手間がかかる。しかし、社会調査という研究方法で自分の興味ある日本文化を調査することにより、自分の手で調査し、自分の目で確かめることができ、生の日本文化を感じ、確認し、実感することができる。その点で、実際の調査作業に重点を置く授業スタイルでよいのではないかと考えながら、授業を進めている。

2つめの課題は、せっかくすばらしいデータを集めることができても、時間的制約とエクセルソフトの限界により、学生は単純集計までで手いっぱいになってしまうことである。2つの項目間に関連があるのかどうかを調べる相関係数やクロス表まで使いこなせると、データをもっと生かし日本文化についての理解をもっと深めることができる可能性がある。また、エクセルではグラフ作成にも手間がかかる。

これらの課題はあるにしても、レポートでもみたとおり、学生たちはとてもおもしろいテーマを設定して調査を行い、さまざまな発見をし感動を覚えることが多い。本センターの留学生が日本文化を感動して体験・学習する一助となることができればと思っている。これからも情熱をもって授業に取り組みたいと思う。

（はやし　あきこ　本センター非常勤講師）